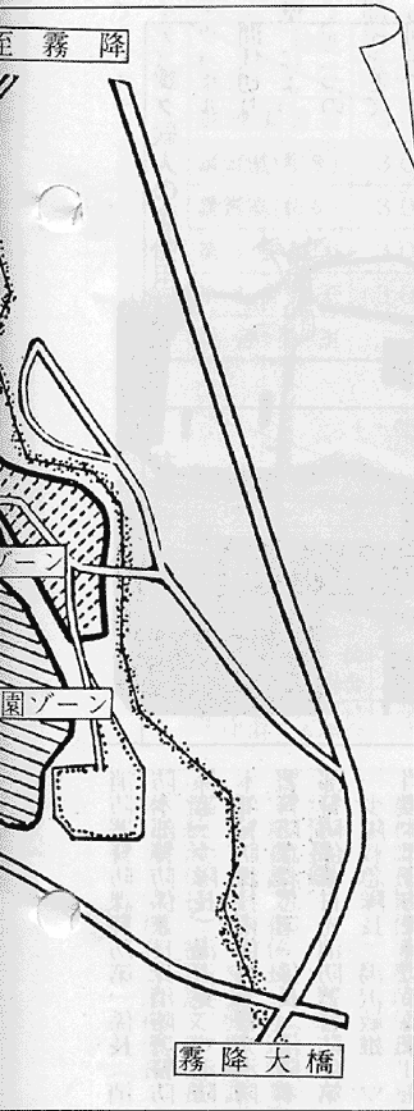


拠点づくり 発の考え方

工芸ゾーンは木工団地ではない



木工芸ゾーン

建物はゾーン面積のわずか15%

この木工芸ゾーンは、木工関係の工場地帯とか木工団地をつくるものではありません。日光彫など日光にふさわしい木工芸品をつくる工房や細工場

を、自然の林の中に点在して建て、訪れる人々が林間を散策しながら、日光の伝統的漆器木工品の製作工程を見学でき、工芸文化を楽しく理解できる場を計画しています。

工房や細工場は十二か所を予定し、これらの総面積は、自然の景観を生かすために木工芸ゾーンの総面積の一五パーセント以内にして、建物の外観も囲りの環境によくマッチしたデザインを計画しています。

小倉山森林公園は、昭和五十二年に小倉山国有林の一部二十四ヘクタールを、四億六千五百万円という巨費を投じて払下げた土地で、私たち市民にとって貴重な財産です。

この小倉山森林公園の望ましい活用を図るために、市議会と執行部が合同で小倉山開発調査委員会を設けて、市内各種団体などから広く意見を求めながら調査検討を行っています。すでに、テニスコートの造成など、計画の一部を着

手してはいますが、小倉山森林公園のよりよい活用を図るために、「もう一度来てみたい」「泊まってゆっくり体験してみたい」という趣向をさそう新しい観光拠点づくりと、市民の皆さんにとって魅力ある憩の場づくりを、五つのゾーンに分けて施設の整備をもくろんでいます。

市民の皆さんの理解を深めて整備を進めるために、小倉山森林公園開発の考え方をお知らせします。

工芸センター、駐車場などを整備

中央管理ゾーン

工芸センター、木工芸センター、駐車場を計画しています。

〔工芸センター〕
小倉山森林公園を管理する総合案内所、休憩所などを設けるほか、森林と生活との結びつきや、日光の伝統的工芸品について、素材から製品に至るまでの工程が一目でわかるような資料の展示場を設けます。

〔木工芸センター〕
森林や木工芸に対する理解を深めてもらうために、木工芸教室と実習室を設け、市民も観光客も一日体験や短期研修ができる場にします。

また、地場産業である木工芸の後継者育成を図る施設としても活用します。

〔駐車場〕
小倉山森林公園で、ゆっくり見学したり、体験したり、また、レクリエーションを楽しんでもらうために、二百台くらい収容できる駐車場も整備します。